

フレッシュマン・オカザキのインド通信

～ インドのインターネットショッピング事情 ～

お世話になっております！ オカザキです！

これから“夏”真っ盛り日本とは反対に、インドは夏が過ぎ、涼しい季節になってきました。曇天が続きずっきりしませんが、じりじりとした夏の暑さに比べればマシな気候と言えます。ただ、この時期スコールが多くなるので、数分前まで晴れていたのに急に激しい雨に見舞われるということもありますので、渡航の際はお気をつけ下さい！

さて今回は、インドのインターネットショッピング事情をご紹介します。

日本では今や当たり前となっているインターネットショッピング。Eコマース (Electric Commerce = EC) とも呼ばれ、耳にする機会も増えてきました。

日本でもスマートフォンが普及し始めてから、楽天・Amazon などより一層ポピュラーになっていますね。私自身も家電から日用品までかなりお世話になっています(余談ですが、一度詐欺にも遭いました・・・苦笑)。

日本の市場規模は約 12.7 兆円と言われていますが、中国の市場規模はさらに

大きく、昨年度の総取引額は約 40 兆円とも言われています

そして、インドの市場規模は？というと、約 5,560 億円。

日本や中国と比べるとまだまだ小さいですね。

インドではたった数百円の買い物のために、公共バスやオートリキシャ (三輪タクシー) を利用して、砂まみれの汗だくになりながら片道 1 時間以上かけて店まで行くということをしなくてはなりません。(しかも、インドの店は品揃えが悪いので、店まで行ってもお目当ての商品がないということはよくあります・・・)。

新興国でのインターネットサービスの恩恵は、先進国でのそれよりも大きいのではないかと個人的に思います。



↑ユーザー数 No.1 の“Flipkart”のトップページ。意外と(?)しっかりしてますね。

インドのEコマース市場は今後どんどん拡大していくであろうポテンシャルを持っていると言えます。それは、12億5千万人という日本の10倍近い人口であること、そして以前も紹介しましたがその平均年齢が25歳という若い人口構成であること、インドのEC利用人口は現在約3000万人と言われており、まだ人口の2.4%ほどですから、今後の国の経済成長に伴って市場が拡大していくのは確実であるように見えます。

そんな大注目のインドEC市場ですが、現在業界内では熾烈な争いが繰り広げられており、外資企業の参入や買収など各企業とも先手を打とうと様々な策を講じています。その事情と共に人気のあるECサイトをいくつかご紹介します！



1. Flipkart(フリップカート)

名実ともにインドを代表するECサイトです。Flipkartは現在1,800万人もの顧客をかかえ、1日あたりの注文数が10万点を超えます。2013年の年間流通総額は1000億円の大台に達し、上場前にも関わらず累計調達額は約750億円とインドのITベンチャー界では知らぬものはいない存在になっています。Flipkartは、米Amazonで働いていたインド人が、インドでも本を手軽にネット購入できるようにと、2007年に始めたECサイトで、後に携帯電話・カメラ・PC・家電・時計・洋服など幅広くカテゴリーを増やしていったようです。

こちらでは 500 ルピー（約 855 円）未満の商品は 1 点あたり 40 ルピー（約 68 円）の送料がかかりますが、それ以上注文すると送料無料でとなります。さらに、代引き手数料もかからないため、クレジットカードの登録がセキュリティ的に心配と思われる方も受け取るまで支払いをする必要がないので安心です。また、多くの商品に 30 日間の無料返品 & 交換保証がついています。他のサイトも同じようなサービスを提供しており、新興国のサービスとあなどってはいけないレベルの高さです。

因みに、Myntra.com という業界 3 位の EC サイトが 2014 年 1 月に約 50 億円もの大型資金調達をし話題となりましたが、同年 5 月に前述の Flipkart に買収されてしまいました。買収額は約 330 億円とも言われています。



2. Snapdeal (スナップディール)

Snapdeal は元米 Microsoft 所属のインド人により創業されました。当初は共同購入型クーポンサイトでしたが、2011 年 9 月にマーケットプレイス型(自社で在庫を持たずに同サイトに商品を置く小売業者のために商品の管理・ピッキング・配送などを行う)の EC サイトへ移行しました。Snapdeal の売上の約 30% がモバイルユーザーからのもので、サイトには 3 万の売り手が存在しており、毎日 100 万人がアクセスしていると言われています。売上における中小都市 (400 万人未満) の占める割合が約 60% と、他サイトと比べると中小都市への顧客リーチが強いサイトです。

また、米大手 ES サイトの “eBay” もインドに進出していますが、Snapdeal へ約 50 億円の出資をし、その後 2014 年 2 月に再度 133 億円もの追加出資を行っています。さらに、ソフトバンクが昨年 10 月、総額約 677 億円の巨額出資をし、同社の筆頭株主となりました。孫正義社長は、向こう数年間で Snapdeal 運営会社を含めたインド企業に対し約 1 兆 800 億円を投資する考えを表明しています。



3. Amazon.in (アマゾン)

Amazon は Amazon.in 開始前に Junglee.com という価格比較サイトを 2012 年 2 月にインド進出しました。そして 2013 年 6 月に Amazon.in としてマーケットプレイス型 EC 事業をスタートしました (Amazon の場合、現在インドでは外資企業の直接投資に問題があり、現状の資本構成では自社内で在庫 & 発送をする直販ビジネスを行うことが不可能であるため)。ハイデラバードに東京ドーム 3 個分以上となる、148,600 m² の広さのオフィスを構え、今後 3 年間で 13,500 人を雇用する計画を 2013 年 11 月発表しています。

4. Yebhi (イエビー)

ニューデリー近くの商業地区グルガオンに拠点を置いており、特に都市部の新富裕層と呼ばれる若く・所得の高い IT 関連または外資系企業につとめている人々に人気のサイトです。

Yebhi は 2010 年から日用品や靴などのインターネット販売を始めており、インド経済界においても Yebhi の持つ経験とノウハウが評価されている。まだ貧弱なインドの決済や物流プラットフォームでなく、自社で配送や倉庫等のネットワークを持っていることもあり、インド国鉄や Philips インドの E コマースの運営を Yebhi に委託しています。

さらに 2014 年 1 月、ジャパンセレクションと称し日本製品を販売するページが Yebhi 内で設立されたそうです(現在は何故か表示されない…?)。アジアで日本製品に対する評価が高いことは言うまでもなく、インド人もそのことはよく知っています。しかし、情報が少ないため日常的にそれをどこで買えるのかがわからない、というのが現状なようです。このような日本製品を専門に扱う常設コーナーを設けることで、特定のメーカーや品目に留まらない、日本製品を買い求めたい消費者をインド中から集めることができます。

特徴のある 4 つのサイトをご紹介しました。如何でしょうか。インドの街並みやその他のサービスなどを見ていると、EC サイトがここまで充実しているとは正直夢にも思っていませんでした。内容によっては日本のサービスよりも優れているのではないかと思ってしまうほどです。

サイトに並んでいる商品を見ていると、商品単価は日本のそれとほとんど変わらない物が多いように思います。安い物も多いですが、日本円で 5000 円ぐらいのシャツやパンツが普通にポンポン売れているのです。インドでは、大学生が 1 ヶ月間アルバイトで稼げる金額が約 12,000 円。大卒であれば 62,000 円、これが 2~3 年の勤務経験を経て 90,000 円になり、20 代後半でマネージャーになれば、140,000~160,000 円というのが相場かと思えます。ざっくり言えば、日本の平均的な給与水準の 1/4 程度ということです。ここから、果たして、高品質ながらも高価な製品を買いたいというモチベーションが、EC サイトユーザーに生まれるのでしょうか。注目すべきは可処分所得の高さです。彼らは実家暮らしが多く、両親や親戚と同居していることが多いのです。つまり、稼いだ給料は、ほぼ小遣いに行きつくということです。

また、IT 企業に勤める人の給料は他業種よりも高く、日本とほとんど差がありません。工場などで働く職人はまだまだ給料が低いので、こうした子供達が親の収入を大きく超えてしまうので、親の威厳がなくなり、工場を辞めたい、といった状況も見受けられるように思います。

今後、インドの生活水準・給与水準は更に向上していくことでしょう。こうしたインドの強みでもある IT 企業は更なる進化を続け、インド全体がどのように発展していくのか、非常に楽しみなところでもあります。

機会があれば実際に EC サイトを利用し、その様子をまたご報告したいと思います！

是非お楽しみに！

工場紹介～ロイヤルブラウン～

前回に引き続き、今回も皆様ご存じの有名石種の工場をご紹介します！石の事は知っているけど、工場はどんなところにあるのか、原石は安定して採れているのか等ご存じでない情報もあるかもしれませんので、是非ご参考ください！

今回は…

お上品な石、といえばこの石種、ロイヤルブラウンです！



和型もよし、洋型もよし、ブラウンの粒子が綺麗に入った美しい石です。お使いになられている方も多くいらっしゃるかと思います。**上品で綺麗な目合いにも関わらず値段は比較的安く、原石のサイズも大きく、問題も少ない**ので私個人的にとっても好きな石です。

こちらの石は**アーバングレーの親戚**のような存在で、目合いも似ています。

工場は、南インド・カルナータカ州とアンドラ・プラデーシュ州のちょうど州境に位置しており、カルナータカ州の州都、バンガロールから200kmほどのところ です。

工場は非常に大きな岩盤の山で、安定しており**キズも比較的少ないので非常に大きな原石が採れます**。堀口によって色・目合いなど数種類あるので、同じ“ロイヤルブラウン”でも工場により多少の色差が出てくることになります。

弊社の石は工場から直接買い付けて、↑のサンプル写真のように色の濃い細目なものを中国の工場に委託加工しています！！

また、インド加工も可能ですのでご用命あれば是非、弊社担当営業員まで！

では、今月はこの辺で。読んで頂き、有難う御座いました。

